

世界の腕時計

WORLD WRIST WATCH TIME SPEC

No. 67 ワールド・ムック457
平成16年2月20日発行
(通巻457号)

独立時計師の世界
『ラインアップ』ピアジェ/ゼニス

2004年

注目の時計メーカー

IWC
SCHAFFHAUSEN

SWISS MADE

2003

BEAT HALDIMAN

ベアト・ハルディマン

スイス・ドイツ語圏に時計師は珍しい。トゥーン湖が広がり、

その向こうにアルプスが連なるスイス中部の街トゥーンにベアト・ハルディマンの工房がある。

独立して10年間は表舞台に出ることなく、2002年、センター・トゥールビヨンを

発表し、一躍注目を浴びた時計師だ。彼はクロック用エスケープメントの

スイス特許を2000年に取得するなど、密かに地歩を固めていた。

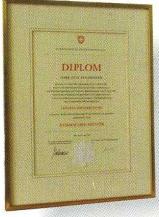
1991年に独立したときに現在の場所に工房兼自宅を構えた。ふたりの若い時計師はベアト・ハルディマンと同じゾロトゥーン時計学校を卒業した。彼らはクロックの修復も行なっている。ハルディマンは禅に興味があり、すべてが中心に向かうというその思想からセンター・トゥールビヨンのキャリバーをZEN-Aと名づけた。またアブラアン=ルイ・ブレゲが作った懐中時計の音が好きで、その音をセンター・トゥールビヨンで再現したかったという。静寂な自然環境があるからこそ、彼は禅を思考し、明瞭な音を生み出すことができる。



ハルディマン H1 フライ
ング。手巻きキャリバー
ZEN-A。パワーリザーブ約
38時間。毎時1万8000振動。
ケース径37mm。シースルーパック。価格18KPGケース、
18KWGケース共に890万円。
プラチナ・ケース980万円

スイス時計産業の中心はスイスの西側、フランスとの国境に接する地域であり、ジュネーブからジユウ渓谷、ヴァル・ド・トラヴェル、そしてラ・ショー・ド・フォン、ビエンヌと続く。しかしベアト・ハルディマンは生まれ故郷から離れようとはしなかった。2002年のバーゼル・フェアでセンター・トゥールビヨン“H1フライング”を発表し、一躍注目を浴びた時計師だ。彼は64年にスイス・ベルン州エンタールに生まれた。ゾロトゥーン時計学校を卒業し、'85年にウォッチとクロックの修復師の資格を得た。'86年から'89年までビエンヌの北、グレンヘンにあるETAで働き、'89年にベルン州トゥーンに戻り時計宝飾店バンゲルダーでクロックやウォッチの修復に携わった。そして'91年に独立し、現在の場所に工房兼自宅を設けたのだった。

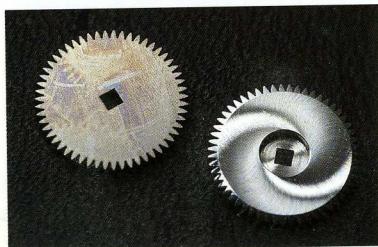
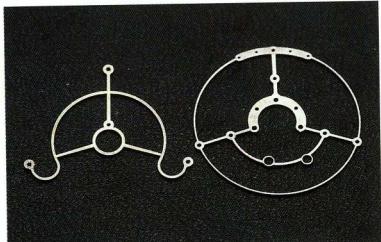
「'92年からある時計メーカーのために腕時計の開発を行ないました。その間は契約上、腕時計を作ることが禁じられました。そこで1700年代にジャンヴィエやブレゲが製作したダブル・レギュレーターのレゾナンス・クロックH101を開発したり、また多くの時計の修復を行ないました。そしてこの頃たくさんの方に時計に関する文



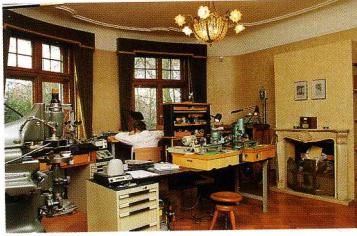
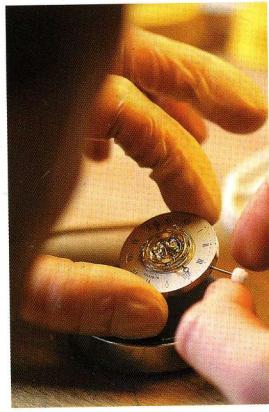
1993年にスイス政府認定のマイスター時計師の資格を取得した。上級時計師で、特別なコースの受講が必要で長期間にわたる厳しい試験が行なわれるという。



2000年に発表したH101レゾナンス・モダン。18世紀の時計師アンティード・ジャンヴィエがはじめて共振現象の原理を時計精度向上に採用し、クロックを製作した。それを現代に甦らせた。



直径31.58mmのムーブメントの中央部に直径16.5mmのトゥールビヨン・ケージをおいたセンタートゥールビヨンは9つの極薄のリング状ホイールを重ね、ケージをその中心においている。またシースルー・パックを通してわかるように7時、9時、11時位置に3つの香箱を備え、9時位置の香箱が時、分針を動かし、7時と11時の香箱がトゥールビヨン・ケージを支える設計だ。



パートの90%は自社工房で製造する。そしてハルディマンが修復で貯めたお金で収集した時計関係の書籍は、修復の資料であり新たなアイデアの源となっている。修復に使用する膨大なパートのストックとともに彼の財産だ。

献を集め、修復の参考にし、またアイデアを得るヒントとしたのです」レゾナンス・クロックは2000年にはラ・ショー・ド・フォンの国際時計博物館に永久展示品として納入されている。今日、フランソワ・ポール・ジユルヌが腕時計でレゾナンスを完成させているが、クロックでこの技術をものはハルディマンのみである。

2001年、前述の腕時計メーカーとの契約が終了し、自らの腕時計製作に着手した。そして誕生したのがH1フライングであった。彼もまた誰も作ったことのないトゥールビヨンに挑戦したひとりだ。文字盤中央にトゥールビヨンを備えているが、これは独自に開発した2番車と、リング状の9枚の極薄ホイールを重ね、その中央にトゥールビヨン・ケージを配置することで可能となつた。また3つの香箱を採用し、それがセンタートゥールビヨン・ケージを配置するワーケの供給を導いている。

パーセンの9割は自社で製造し、完成品は年間20個を目標とする。独自の道を突き進むハルディマンは世に出るのは遅かったが、独立から10年間の蓄積は大きく、しかもまだ40歳の若手だ。その技術力で今後が期待されるひとりである。